就職最前線

高等専修学校　進路指導部

平成２１年３月に武蔵野東高等専修学校を卒業してから６年の月日が経ち、平成２７年４月、教員として母校へ戻ってくることができました。そして、進路指導部の一員として生徒たちの将来を一緒に考える立場となりました。

在学中は同級生や先輩の進路が決まっていく中で、彼らの進路決定の裏側にどのような苦労があったのか知りませんでした。しかし、進路指導部として活動していると就労までの道のりがとても険しいものだと実感しました。生徒は進路決定の為に２年次から企業や福祉事業所での実習を行い、先方から共に働くことができるか判断をして頂きます。中には一度の実習でとても良い評価を受ける生徒もいますが、当然ながら次に繋がらない生徒もいます。作業能率や対人関係、礼儀など様々なところで判断をされることは健常児もむらさき会の生徒も変わらず、社会の厳しさを痛感することとなります。

私も先輩の先生方に同行させて頂き、色々な場面に対面することができました。実習先の方から嬉しいお言葉が聞ける時があります。また、逆に厳しいご意見を頂き、次への課題を示して頂いた時もあります。その中で自分の携わったことのある生徒の進路が決まっていくととても喜ばしい感情が湧き上がってきます。

しかし、４月からの新しい環境でのトラブルも少なくないのが現状であり、卒業生が進路先で安心して過ごしていけるようにフォローしていくのも進路指導部としての仕事の一つです。むしろこのフォロー体制こそが本校の特徴だとも思います。

私個人で担当している生徒はまだおりませんが、進路指導部として１人でも多くの生徒が胸を張って社会へ飛び立つことができればと考えています。